

(2) 課題 ～社会・経済を支える交通まちづくり～

① 時代潮流への対応

我が国は、少子高齢化や人口減少、地球温暖化、エネルギー需給のひっ迫懸念など、様々な問題が顕在化しつつあります。

これまでの流れに逆らうような「マイカーを基礎とした生活スタイル」からの脱却は、大変難しい課題です。

しかし、将来に対し、より良い環境を引き継ぎ、持続可能な「まち」を築いていくためには、自らの生活利便性を追及するだけでなく、長期的な視点に立って、公共交通の維持・活性化に取り組んでいく必要があります。

● 少子高齢社会への対応

高齢者や子育て家庭が、安全に、かつ安心して外出・移動できる交通環境を整えていく必要があります。

● 人口減少社会への備え

低密度な市街地の拡大を抑制し、人口や都市機能を中心市街地をはじめとする都市拠点へ再集積していく必要があります。

● 環境に対する負荷軽減

マイカーへの過度な依存を軽減し、環境に対する負荷の少ない公共交通や自転車の利用を促進していく必要があります。

また、公共交通は、単に移動手段を確保するのみでなく、地域の活性化やコミュニティづくりに資するものであり、市民の安心・安全で快適な生活を支えるものです。

今後の交通政策は、これからの暮らし方や「まち」のあり方に基づいて、公共交通の果たす役割や位置づけを明確にし、総合的かつ安定的な施策を進めていく必要があります。

いつまでも「変えたくない」暮らし
そのためには、私たちの暮らし方を「変える」必要がある

②まちづくりとの連携

公共交通は、移動手段の確保としてのみではなく、経済活動を支え、交流や連携の基盤となるなど、まちづくりの重要な要素となります。

特に、都市核へ都市機能を集積し、交流を活発にしていくことは、都市を成長させる源となり、本市の発展を図る上での重要な課題です。

また、集約型の都市形成(コンパクトなまちづくり)の観点から、土地利用や施設配置との連携を図りながら、都市核・地域核の快適性・回遊性やアクセス利便性の向上を図り、街の求心力を高めていく必要があります。

さらには、本市は合併を契機として、市民生活の質的向上や新市住民の一体感を醸成することが求められていますことから、地域づくりや地域間の交流・連携を促進することにより、それぞれの地域資源を相互に享受し、全体として均衡ある発展を図っていく必要があります。

●交通によるまちづくり

まちの顔である都市核・地域核の求心力を高め、快適で利便性の高い都市環境を創出するとともに、地域の自立・活性化や地域間の交流・連携を促進する交通システムを整えていく必要があります。



都市核

行政、業務、商業、文化など多様な高次都市機能が集積し、都市圏を越えて質の高い都市的サービスを提供する拠点。

地域核

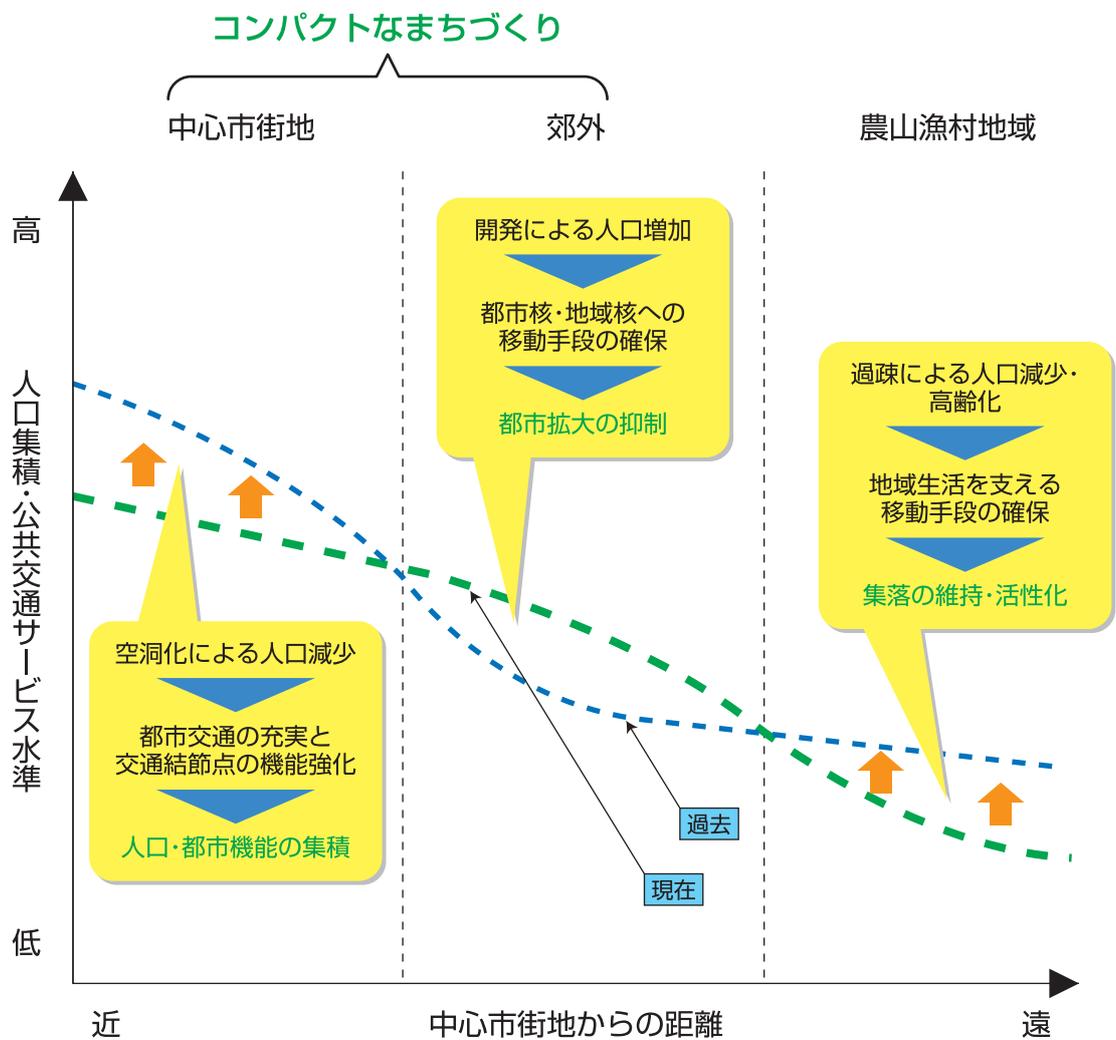
行政サービスや保健・医療・福祉など市民の日常生活を支える機能を備えた地域の拠点。

本市の人口や都市機能は、旧市町の中心部に集積していますが、山口や小郡地域では、農地や丘陵の宅地化によって人口や都市機能が郊外へ拡散し、中心市街地の空洞化や非効率な都市の拡大が進行しています。

また、農山漁村では、少子高齢化や核家族化等により、地域人口の減少が進行しており、集落の維持・活性化が課題となっています。

このように、本市は様々な地域課題を抱えており、中心市街地活性化や地域活性化など、都市政策と一体となった交通まちづくりに取り組んでいく必要があります。

■交通まちづくり(イメージ)



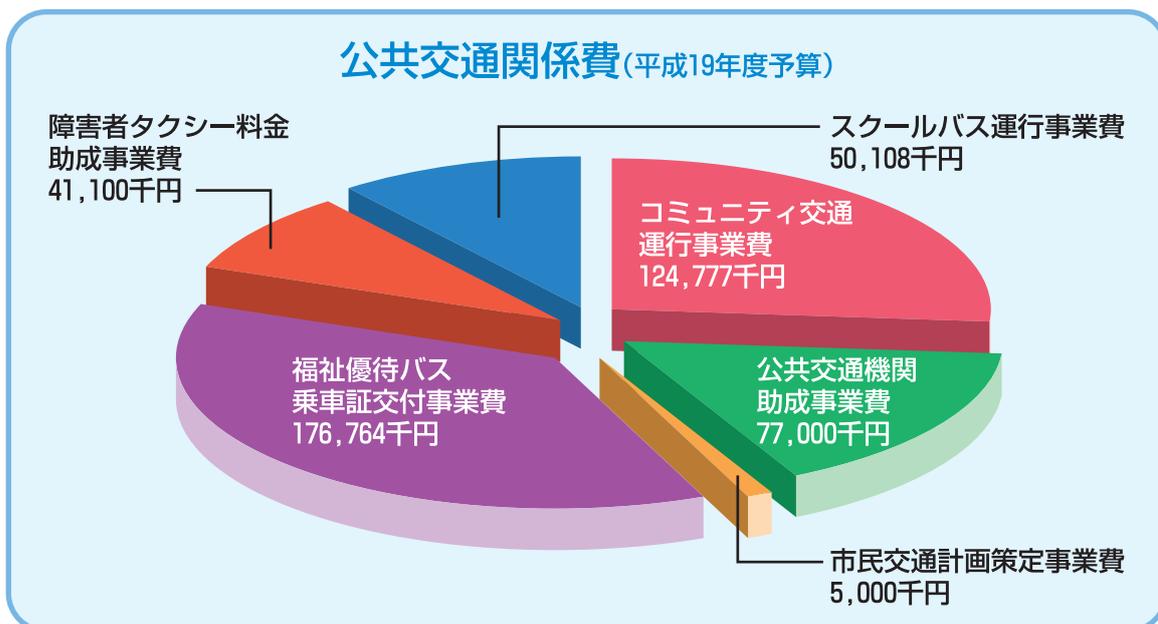
③ 持続可能な公共交通づくり

公共交通に対する市民ニーズは高まっていますが、利用者は年々減少する傾向にあります。こうした中、高齢化率が高く公共交通に対するニーズが強い地域ほど、公共交通の衰退が進んでいます。

しかしながら、交通事業者の経営状況は悪化しており、交通事業者の努力だけでは、諸課題を克服することが困難な状況になっています。一方で、市の財政状況も厳しさを増しており、このままでは公共交通を拡充するどころか、現状維持でさえ困難になりつつあります。

また、本市は、大変広い市域を有していることから、これまでのような画一的な交通システムでは、地域の多様なニーズに対応できず、財政的にも維持・拡充が困難です。

将来にわたって公共交通を維持・確保するには、みんなが公共交通の重要性を認識し、社会全体で支えていく必要があります。



**地域で支え、地域を支えていく交通
持続的な交通(地域)づくりには、住民の参画が重要になる**